

重要湿地
(美佐野ハナノキ湿地群)
について
御嵩町

重要湿地（美佐野ハナノキ湿地群）について

- ・ 岐阜県立森林文化アカデミー玉木先生との現地踏査について

美佐野ハナノキ湿地群の現状を把握し、適切な保全策を検討するため、玉木先生と改めて現地踏査しました。玉木先生のレポートと現地の様子を紹介します。

- ・ 湿地の有識者（富田先生）のご見解

湿地の保全の考え方についてのご見解を紹介します。

【プロフィール】

○名 前 富 田 啓 介

○所 属 愛知学院大学教養部 准教授

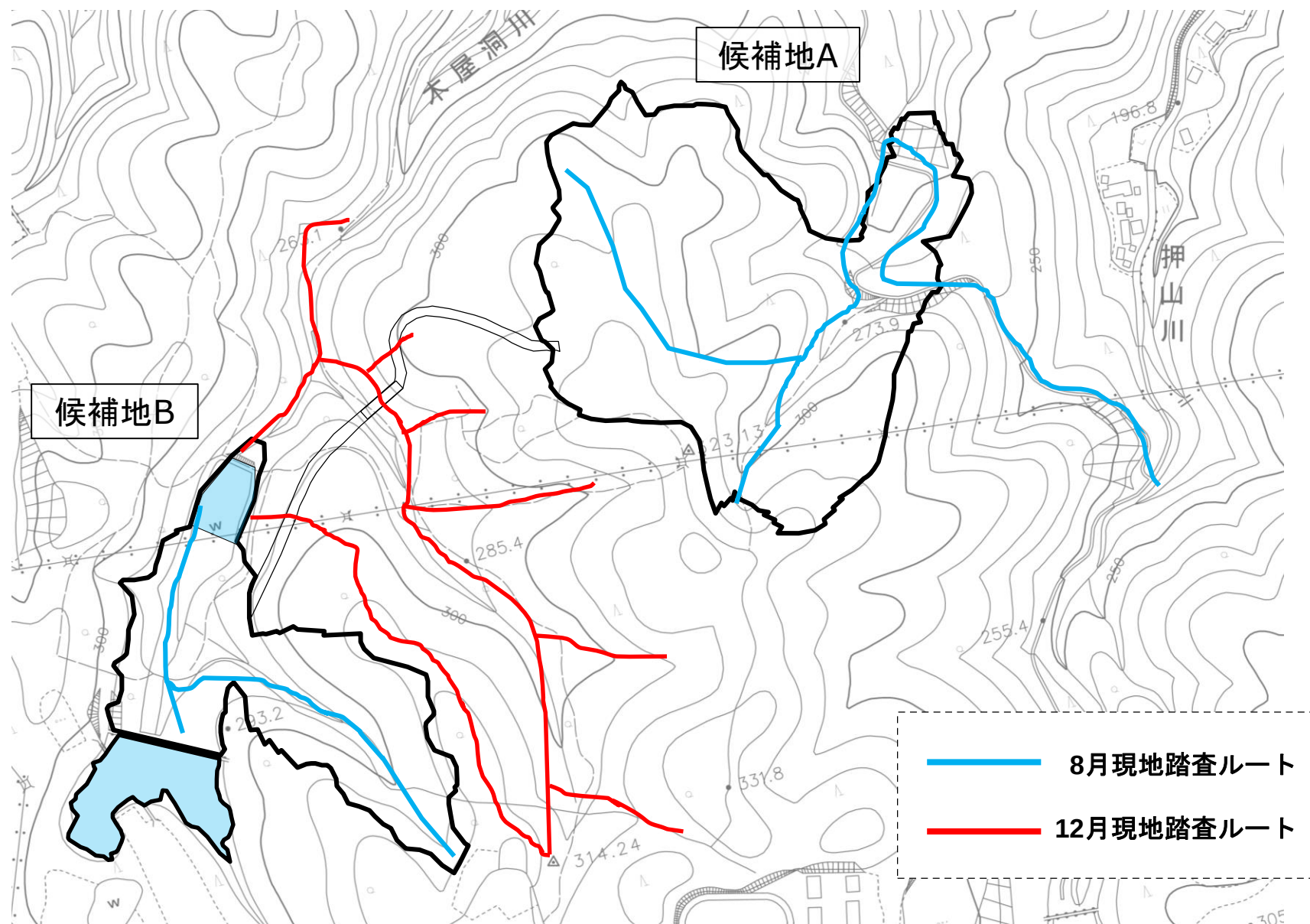
○専 門 自然地理学（特に地生態学）

【研究テーマ】

里地里山における生物生息地の環境形成・環境史・保全。具体的な研究対象としては湧水湿地・ため池など。

東海地方の湧水湿地について研究している「湧水湿地研究会」の会長として、環境省の重要湿地改定にも情報提供している。

岐阜県立森林文化アカデミー玉木先生との現地踏査ルート



岐阜県立森林文化アカデミー玉木先生の12月現地踏査レポートより

○ 今回のルートで確認された植物

- ・コハウチワカエデ、ナツツバキ、ウスギヨウラク（氷河時代に低地に下りてきた遺存集団）
- ・ヒメカンアオイ
- ・シデコブシ（被圧されている）
- ・樹高の高いシデコブシ（タムシバとの雑種個体の可能性あり）
- ・尾根にアカマツ、ソヨゴ、コナラ、アベマキ
- ・ミズゴケ、ヒノキ人工林
- ・ハナノキ若木
- ・多数のハナノキ成木（親木の下や暗い場所ではハナノキの当年生実生はほぼ全てが枯死している可能性あり）

○ 玉木先生所見

ハナノキの自生地ではハナノキの成木が多く見られ、更新が滞り、若木はかなり珍しい。これら個体を種子供給源として、周囲の谷を伐採して明るい場所を作ることにより実生更新を促していくと良いだろう。この谷の林の全体的な樹高は高く、谷の周囲も含めて伐採して明るくしてやらないと、ハナノキの若木は更新できないし、シデコブシも衰退していく一方であろう。水分状態が良好な湿地を、仮に移植の候補地にする場合、周りを伐採しないと暗くて育たないだろう。

現地の様子



人手が入らなくなり、植生遷移が進行し、
里山の生物が好む明るい環境が減少。
→ ハナノキやシデコブシの若木が育つ
ことができない。



高木層まで育つことができた成木はいず
れ倒れてしまう。
→ 若木が育つ環境を整備し、更新を促
進することが重要。

愛知学院大学の富田先生のご見解

【重要湿地（美佐野ハナノキ湿地群）の範囲について】

- 湿地群とは、湿地だけでなく集水域を含む湿地の集積する地域全体を示している。
- 押山川と木屋洞川に挟まれた一帯の丘陵地を美佐野ハナノキ湿地群と認識している。

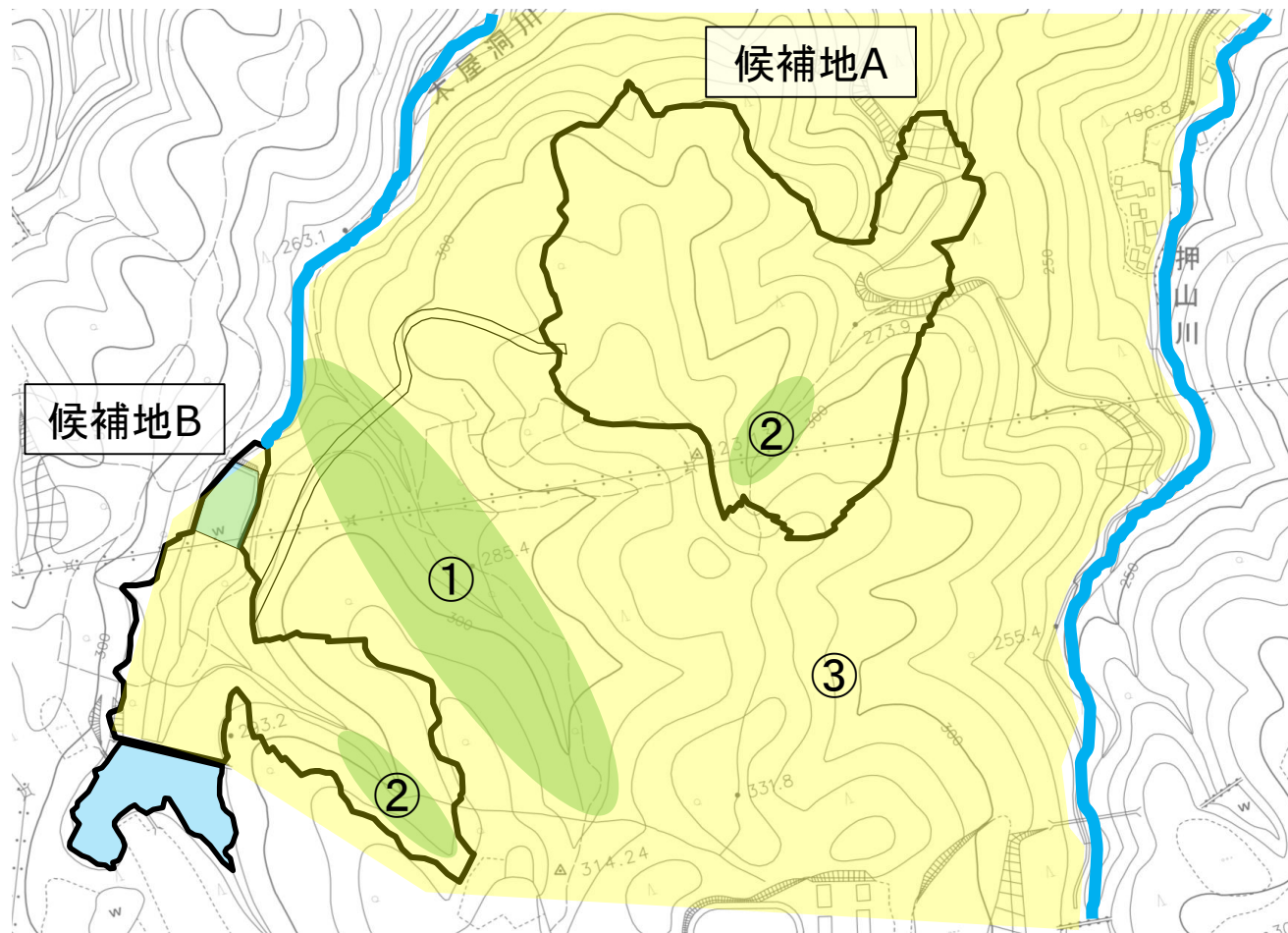
【湿地の保全について】

- 隣接する湿地と種の移動があるため、一部の区域（群生地）だけを保全しても完全な保全とはいえない。
- 希少種、湿地の保全のためには、間伐等の適切な対策が必要。里山林として整備することが、生態系の保存、エリア全体の保全につながる。



保全・開発のいずれも、実際に保全を行っていく地域の皆様との折り合いが重要。具体的な保全計画や保全策を協議してはどうか。

美佐野ハナノキ湿地群の範囲について町の認識と今までの経緯



①ハナノキ群生地エリア

環境省へ重要湿地の選定箇所の考え方を確認するまでは、第2回フォーラムにおいてJR東海から報告を受けたとおり候補地A、Bの間の谷筋（ハナノキ群生地エリア）を重要湿地と認識。

②候補地内の湿地林構成種分布エリア

環境省へ重要湿地の選定箇所の考え方を確認し、候補地内の湿地林構成種（ハナノキ・シデコブシ等）が分布する箇所についても重要湿地と考えられると認識。

③押山川-木屋洞川 間の丘陵エリア

愛知学院大学の富田先生へ重要湿地の選定箇所の考え方について見解を伺ったことにより、候補地内の湿地林構成種分布エリアだけでなく、押山川と木屋洞川に挟まれた一帯の丘陵地を美佐野ハナノキ湿地群の範囲と認識。

今後の予定について

下記のとおり、本フォーラムとは別に今後の保全計画について協議の場を設ける予定をしております。

環境省、有識者の方（玉木先生、富田先生、千頭先生）も交え、町民の皆様と一緒に、湿地について学び、より良い保全策を検討していきたいと考えております。

○重要湿地についての勉強会

日 時：令和5年2月5日(日) 14：00～

場 所：中公民館 3階大ホール

内 容：重要湿地「美佐野ハナノキ湿地群」とは
保全方針について